

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|-------|--|
| 事業所番号 | 0470200544 | | |
| 法人名 | 医療法人 社団 仁明会 | | |
| 事業所名 | グループホーム青葉 | ユニット名 | |
| 所在地 | 宮城県石巻市門脇字一番谷地57番地の19 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月17日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年2月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム青葉は経営母体が医療法人で、老人保健施設併設でもある為、日常の健康管理及び体調の急変の際には迅速に対応できるように病院・老人保健施設との連携を確保しています。また、できるだけ自立して生活していただくように、できる事はしていただくように支援しており、「年を重ねるごとに自分らしく、笑顔を決やさず楽しく健康的に暮らしたい」をスローガンに掲げ、入居者の皆様がゆったり穏やかに、一人一人のペースで過ごせるように取り組んでいます。職員は楽しみと親しみを持って入居者の皆様と関っており、皆で明るく笑顔と笑い声の絶えない日々を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災復興に向けて形成された新市街地(あゆみ野)に、昨年新設した仙石線「石巻あゆみ野駅」から約500mの住宅や中学校等に囲まれた閑静な場所にある。同法人の理念を基に毎年度末には職員全員で話し合いを行い、入居者が『安全で楽しく生活できるように支援する』のホーム目標を掲げている。看取り介護と重度化対応の指針を明文化し、重要事項説明書に付し同意を得ている。災害時の地域協力体制構築に向けては市、消防署に相談し、地域防災訓練への参加を計画している。向いにある同法人内職員用保育園や近隣の保育園とはあおば祭りへの招待やハロウィン、クリスマス等々に訪問があり、楽しい時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム青葉)「ユニット名 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念を基に年1回事業所の目標を立てて、目標達成に努めている。 | 職員で決めた事業所理念「入居者が地域の中で安全に楽しく生活できる支援」を下に、具体的な4項目の目標を掲げている。自己評価のサービス成果項目は職員からヒヤリングを行い、その結果を評価値としている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、町内の行事連絡を頂けるように町内会長さんをお願いしており、今年も老人クラブのお楽しみ会に参加させていただいたり、隣の中学校の運動会を観させていただいた。 | 近隣の保育園児をホームのあおば祭りに招いたり、ハロウィン等には仮装した園児が来訪する交流がある。併設老健施設に訪れるアルペンホルン演奏等にボランティア来訪時には合同での交流が図られている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 中学校の職場体験学習を受け入れたり、行事を通じて地域の方々と関り合う機会がある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議で運営状況の報告を行い、その時に意見やアドバイスをいただき、実行に努めている。 | 町内会長、民生委員、市職員、家族、入居者等が参加し2か月に1回開催している。地域協力体制づくりに向けて地域防災訓練への参加や、手不足で休耕状態となっている畑を活用した野菜作りの意見提言があった。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 毎回の運営推進会議に市の職員に出席していただいている。また、困った時にはその都度、市の担当部署に相談しており、市主催の会議等に参加している。 | 災害ハザードマップによるホーム周辺の危険状況把握、確認をしている。家族から相談のあった介護度変更に伴う手続き等について相談を行った。地域密着型サービス運営委員会等に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は一人ひとりの状態や気持ちに配慮した対応をするように心がけており、日中は玄関に鍵を掛けない等行動の制限にならないように注意している。 | 常時車イス使用の入居者が、自走可能で意思表示もあることから見守り、声掛けで対応している。昼間の玄関施錠は行わず、出入りのチャイムを設置している。以前転倒骨折している入居者に、家族の了解を得て布団に鈴を付けて対応している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修を行って、虐待について学習しており、職員は利用者に対して感情的にならないように、虐待をしないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修を行って、権利擁護について学習しており、必要があれば支援するように心掛けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書や重要事項説明書を用いて、確認をしながら十分に説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御家族の来訪時や電話連絡の時に話を伺っている。相談・苦情等の相談窓口として第三者委員をお願いしている。 | 掃除等「できることはやらせてほしい」の要望や、家族対応のかかりつけ医への受診付添い依頼に応じている。入浴拒否の方について家族と電話相談し、「好きなようにさせて」との無理強いしない対応をしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送りや職員会議の時等に職員の意見や提案を聞き、仕事に活かしている。また、運営会議等に管理者が出席し、意見や提案を代表者に伝えやすい環境が整えられている。 | 普段から意見、相談できる雰囲気がある。入居者愛用の車付イスを常に歩行器代りにしており、ネジの緩みを点検する提案があり実行している。研修や会議に不参加の職員に後日回覧し、コメントを記述している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 働きやすいようにシフト表を個人の希望に沿うように作成している。また、法人独自の考課制度で実績や成果の反映を図っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修に参加している。また、事業所独自で勉強会をしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修先等で同業者との交流や情報交換の機会がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居希望者の方と最初に面談する時には、よく話を伺い、安心していただけるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居希望の御家族と面談する際には、困っていること等や疑問点をよく伺って、入居後に親しく話して頂けるような関係を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 関係者、御家族、御本人からよく話を伺い、必要であれば他のサービス利用も含めた対応を心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯物をたたんでいただいたり、部屋の掃除をしていただいたりして、暮らしを共にしている者同士の関係になるように接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様の状態を報告し、話し合い、できるだけ協力していただけるようお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 御家族、御親戚の方が定期的に面会に訪れている。また、外出や外泊されて御家族、御親戚と接している方もいる。 | 馴染みの人や場所に出かけることはほとんどないが、家族や親戚、近所の方等の面会時に団らんできる配慮を心掛けている。食事やお茶の時間には、気の合う入居者同士が会話をしながら談笑している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士の関係に配慮しながら、テーブルの席を考慮している。また、孤立しないように職員がよく話し相手になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要があれば、他施設の紹介やサービス等どんな相談も受けられるように、心がけている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様には食事時間の他は決まったタイムテーブルが無いので、思い思いに過ごしている。お茶の時間には希望を伺い好きな飲み物を出している。その他できるだけ意向を伺って、それに沿うよう努めている。 | 食事や入浴を拒む入居者がいるが、「本人が望むようにしてほしい」との家族意向に沿うよう配慮している。男性職員を息子と認識する入居者もあり、家族的な雰囲気での対応を実践している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用前にバックグラウンドアセスメントとして、詳しくお話を伺っている。また、毎日の会話の中で、色々な事を伺い、把握するように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一般状態の観察をして、必要事項を記録し、申し送りをしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に1回、ケースカンファレンスとモニタリングを行い、ケアプランに活かしている。 | ケース記録とケアプランを一緒にファイルし、ケアの見直しに役立てている。6ヵ月毎及び状態変化に伴う計画見直し、家族の説明、同意を得ている。毎月の支払時に家族と面談し現況説明を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録に記載して、毎日の申し送りや職員会議、カンファレンス等で話し合っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 御本人・御家族の状況や要望等に沿った柔軟な対応に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内老人クラブの演芸会に出席したり、中学校の運動会を見に行ったりして楽しんでいる。また、消防署の立ち会いのもと、防災訓練をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的には協力医療機関への受診となり、病院側からの理解も得られている。それ以外の病院受診の際は、本人・御家族の意向に沿った病院を受診できるように配慮している。 | 協力医受診は職員が行い、皮膚科や整形外科等かかりつけ医の受診対応は家族である。依頼により職員が対応し受診結果を家族に電話で報告している。受診時に医師への情報提供できる日々のケース記録がある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設施設の医師・看護師により、健康チェックや相談・指導をさせていただいており、緊急時にも迅速に協力を得られる体制になっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は定期的に利用者様と面会し、病院関係者・御家族との情報交換・連携を密に行って、入退院がスムーズに行われるように、退院後もできる限りホームに戻れるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の対応に係る指針を定め、御家族に説明・同意を得ている。併設施設の医師・看護師長・事務長も含め、職員間で方針を共有している。 | 重要事項説明書に付し指針の説明、同意を得ている。急変時の対応については、法人施設の協力もあり、協力医が救急病院となっている。24時間の連絡体制を確保して必要に応じ健康上の管理等に対応する体制をとっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ひやりはっとの年間のまとめをして、勉強会をしている。また、救急法の研修を受講し、報告会を兼ねて勉強会をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策の見直しを行っている途中であるが、火災及び地震については消防署及び石巻市防災推進課からの助言をいただき、これまでのマニュアルの見直しをおこなった。 | 市防災対策課、消防署に相談し連携を図っている。同法人の老健施設、保育所と連携した年2回の災害訓練を行っている。市や地域の助言を受け、地域防災訓練に参加することによる協力体制構築を目指している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 他者の目を意識し、さりげない声がけ・対応を心掛けている。職業倫理やプライバシー保護の勉強会や接遇の研修で意識の向上を図っている。 | 呼称は姓や名の「さん」付けで呼びかけている。入浴中に浴室に入る際はノックして、「失礼します」の声をかけている。接遇の研修(2回)と「心構え、プライバシーの尊重」の研修を行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様個々の意向を伺って、介護に活かすようにしている。意向を伺う時には選択肢を用意する等工夫をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | コミュニケーションをよくとり、できるだけその方の意向に沿うように心がけている。食事時間に幅があり、その方のペースに合わせている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その方の意向に沿うように服装を決めていただいている。お化粧をされる方もおり、希望の品がそろうように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 施設内で食事を作っており、料理の匂いで食事が近いことが分かる。意向を確認し、できる事を考慮しながら、職員と入居者様が準備や片付けの手伝いをしている。また、食べたい物を伺って献立に活かしている。 | メニューは職員が作成し、法人の管理栄養士が毎週確認している。麺類や魚、肉等好物の希望があり、誕生日等に提供している。普段はテーブル拭きやお盆拭きをしたり、お月見団子作りなど一緒にしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 併設施設の管理栄養士に栄養バランスやカロリーをチェックしていただいている。個々の能力に応じた食事形態をとっており、チェック表で摂取量や体重の増減を把握している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後に声がけや介助をして、口腔ケアをしていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿の把握が必要な方には、チェック表を用いて排泄パターンを把握するように努めている。現在日中は入居者様全員がトイレやポータブルトイレで排泄している。 | 見守り、歩行介助は行っているが、大半の入居者は自立排泄である。夜間の排泄を心配する方がおむつ使用を希望し、家族の同意を得て応じている。失禁することのある入居者に、洗い替え用イスを配備した。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便の記録をとり、各入居者様の排便状況を把握している。便秘されている時には、食物繊維や乳製品を摂取していただいたり、下剤を服用していただいたりしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2～3回入浴の声かけをして、入浴していただいている。拒否の場合は機会を改めて、声かけして入浴していただいている。 | 浴室には暖房設置がないため、浴室扉を開けて脱衣所の暖房を利用し浴室保温をしている。入浴剤を使用しリラックスできる雰囲気を出している。通年のように入浴拒否の入居者にも繰り返し声掛けで誘導している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その方のペースや希望に合わせて、各々の好む場所で自由に休息できるように配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書をファイリングし、職員がいつでも見られるようにしており、職員一人ひとりが薬の目的・副作用・用法・用量について理解できるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの能力や好みを生かして、お手伝いや楽しみごと、気分転換等をしていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 仲の良い方同士少人数でドライブに出かけられている。また、外出や外泊をされる入居者様もいらっしゃる。 | 年間行事に気晴らし観光を計画している。近郊の日和山等へのドライブは「また行きたいな」との声も聞かれた。家族の面会時に外出し、孫の演奏発表会等にも行っている。天気の良い日は、散歩をしながら保育園児との会話や梅の花見物等を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 預かり金とは別に御自分でお金を持っていたことは自由にしている。また、そのお金で買い物をする方もいらっしゃる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話・手紙はその都度本人・御家族の希望に応じて支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 生活感が出るように、家庭的な品々の設置や季節に応じた装飾等に入居者様と職員と一緒に取り組んでいる。 | ゆったりした食堂兼居間にある畳敷きの小上りに風格ある雑飾りがある。壁面には保育園児が仮装して訪れたハロウィン等の写真や、色彩が施された入居者の塗り絵がある。居間から通じるウッドデッキでは、花見や花壇の草花を見ながら寛いでいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室で一人の時間を持つことができ、食堂や談話室等で気の合った者同士仲良く過ごしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で生活していた部屋に近い環境に合わせている方もいるが、その方の症状によっては、物があることで不安になることがあり、居心地良く過ごせるように配慮している。 | 小上り風の畳敷き4室とフローリング5室がある。職員が掃除をしているが、モップ掛け等を行う入居者もいる。位牌やテレビ等を置いている方や、愛用したベッドや整理棚を置いている入居者もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自ら日付が分かるように、手作りのカレンダーを設置したり、自分の部屋やトイレの場所が分かるように貼り紙をしたりしている。 | | |